

会 議 録

会議名	令和5年度第1回印西市子ども・子育て会議
開催日時	令和5年8月29日(火) 午後2時00分から午後4時00分まで
開催場所	印西市役所附属棟23・24会議室
出席委員	西村信 会長、山崎晃生 委員、武藤茂 委員、古賀一人 委員、岩井基 委員、松山毅 委員、 小林すみ子 委員、金子貴子 委員、篠原裕子 委員、荒野多恵 委員 計 10名
欠席委員	伊藤秀賢 委員、塚田昌幸 委員 計 2名
出席職員等	[健康子ども部] 部長 岡本 一弘 [事務局] 【子育て支援課】五十嵐将晃、黒田学、武本聡美、小森谷幸一、木村裕子、田上麻衣 [関係課] 【保育課】齊藤利裕、服部里江、鈴木勝巳、中島好洋、成田勝也 【健康増進課】坂本郁子、伊藤恵子 【学務課】加藤知巳、大知尚暢 【生涯学習課】飯塚知明 計17名
傍聴者	0名
会議次第 議 題	1 開会 2 議題 (1) 今後の保育所等の施設整備の方向性について【資料1】 3 報告 (1) いんざい子育てプラン進捗状況について【資料2及び3】 4 その他 (1) 子育て支援ポータルサイトについて (2) 第3期子ども・子育て支援事業計画について 5 閉会
配布資料	・会議次第 ・【資料1】 今後の保育所等の施設整備の方向性について ・【資料2】 第2期印西市子ども・子育て支援事業計画中間見直し ・【資料3】 いんざい子育てプラン進捗状況について ・子育てポータルサイトのサブタイトル候補の投票

会議概要・審議経過

会議の公開と傍聴規定について
会議の録音並びに会議録の要約筆記及び署名について
会議の開催について 定足数に達していることを報告
会議資料の確認

1 開会

2 議題

【会 長】 議題に入ります。

議題(1) 今後の保育所等の施設整備の方向性について、議題とします。事務局より説明をお願いします。

(1) 今後の保育所等の施設整備の方向性について

- 事務局より説明
- 質疑、意見

【委 員】2点質問です。2ページ目で待機児童が133名から0名というように推移をしていますが、この間政策転換の議論というのが必要ではなかったのかなと思いました。保育園をたくさん作り、今後の経営の問題にも行き当たるということですが、こういったしわ寄せや、今後の長期的な問題はどのようなふうを考えているのか、保育園をどうしていくのか教えてください。

もう一つが、長期的な視点で保育ステーションという新たな取り組みとありますが、その前に印西を魅力的な街にするためにも人口減対策として、どんなコンセプトでやっていくか。流山市みたいなビジョンがあるのか。具体的にどのようなベンチマークをしていて、どのような動きをしているのかというところをお聞かせください。

【事務局】まず、政策転換の議論があったのかについては、平成30年4月1年に133名の待機児童が発生し、この解消に向けて、施設整備してきたわけです。徐々に待機児童が減少してきたことから、令和2年度時点では、市としてはもう大きな園はいらないという方針を出し、小規模保育事業所を募集すれば、待機児童対策は十分だということで動いておりました。そのため小規模保育事業所の設置運営してくれる事業者を公募しました。

ところが、令和2年11月に実施した令和3年4月の入園申込を受け付けたところ、大変多くの申込があったことから、多くの待機児童が発生する見込みとなったため、ここで大きな園を新設すると方針転換しております。この方針のもと、令和3年2月に印西市内の保育所を運営する全事業者さんにお集まりをいただき、新しく園を建てていただけたところはないか、また増築をしていただけたところはないかと、お聞きしました。その中で手を挙げていただいたところをお願いをして、緊急的に待機児童対策として新設、増築を決め、それらの園が令和4年4月1日、令和5年4月1日にそれぞれででき上がってきて、今、待機児童が0名になったということでございます。

それから経営への影響、長期的な状況に対しての考えについては、やはり過剰整備になってはいけなかなと、施設整備を進める担当の方では話をしています。利用する児童のお母さん方の視点であれば、保育園をいくらかでも創って、自由にどこでも選択できる状況まで、施設を整備していくことも選択肢の一つとは思いますが、それで施設の経営がうまくいくのか。保育園がつぶれてしまうことが、他の市町村で起こっていますので、そのようになっては創っても意味がない。やはりある程度創るけれども、しっかり長期的に安定して経営できる、というようなところで施設数を推移させていかなければ、がんばっていただい

る各保育園に申し訳ないと思います。そういった視点で、過剰整備にはならないようにと考えております。そのため、どうしても整備しなければならなくなった時には、市内の既存法人、既存施設の皆さんのご協力をいただき、増築等、最低限増やしていく。または、保育ステーションを設置し、園児数が減少した施設にも、児童を運んで行ける仕組みをつくり、既存施設を利活用していく方がよいのではないかとということで、本日の今後の方針となっております。

人口減対策のビジョンをどのように考えているのかという点については、市の政策として企画政策課が考えている部分ですが、流山市では子育ての街のビジョンの下、送迎保育園ステーションを整備して、テレビ等でも話題になっておりますが、我々は我々の立場で、子どもたちのために、この保育ステーションについて、調査研究してまいりたいと考えており、今後の方針に入れさせていただいた次第です。

【委員】例えば、こども家庭庁で実施している子ども誰でも通園制度があります。家庭の孤立を防ぐような施策とか、やはり0歳児から2歳児というのは、結構そういう方もおり、その辺り念頭に入れているのかお聞きしたいです。

【委員】長期的に見て、既存の大規模な施設のみでは希望する皆さんの保育が難しいという現状がわかりました。柔軟に対応していくためには、保育ステーションのような施設がこれからますます活躍していくと考えますが、この保育ステーションを少し具体的にお聞かせください。保育ステーション開設の条件について、また現在何件ありますか。市の中では、足りている状態なのか足りていない状態なのか。最後に、現状として起きている問題点等があればお聞かせください。

【事務局】市内で送迎保育ステーションを実施しているところはありません。

【委員】では、保育ステーションというのは、どのようなものですか。

【事務局】保育ステーションというのは、例えば流山市の場合には、駅隣接の施設に保育室を用意しておりまして、そこで朝預かった児童を、バスや専用車に乗せて、A園、B園、C園…と各保育園へ回って送り届けるものです。帰りは逆に各保育園から駅隣接の保育施設に児童を集めてきて、仕事帰りの保護者が迎えに来るシステムです。

【委員】保育ステーションについて、私が思っていたのは大規模な園ではない、例えば、一時預かりでやっているような施設のことかと、少し勘違いをしていました。例えば、大規模施設に定期的に預けることができないお子さん達を、ご家庭で預かっているような方もいると聞いております。そういったものは市の許可が必要であると思いますが、そのようなところを少しずつ広げていくという考えもあると思い、質問しましたが、いかがですか。

【事務局】委員がおっしゃった施設というものは、一時預かりや認可外保育施設のことかと思いますが、保育園が空いていない時に、一時的に預けるといった施設が市内にあることは把握しております。そういった施設に、保育ステーションを使って送り届けるということでしょうか。

【委員】基準となるべきは大規模な施設であると思います。ですが、どうしても人数が足りない、大幅に待機児童が出てしまう可能性はあると思います。その場合は、子育てをしている方々の側からいえば、どこでも条件が整っているところであれば預けたいという気持ちがあると思います。見通しが立たないことに対しては柔軟に、一時預かり等の施設を増やして、そこに預けるということが良いのではないのでしょうか。

【事務局】待機児童が発生している際には、一時預かり施設や認可外保育施設にお子さんを預けた保護者の方から、新しい保育園はできないのですか、入れる保育園はないのですか、とたくさん問合せを受けました。今は待機児童が発生していませんが、発生した際には一時預かり施設や認可外施設を、市の方で増やすというようなことができないのですか、というご質問かと思えます。

まず一時預かりですが、公立や民間の保育園に併設されているところが多いです。また、認可外保育施設というのは、市の方で県への届出等を行います。市が計画等で増やすというような性質のものではありません。どちらも現段階で、市の方で増やそう、減らそう、こうして行こうというような具体的な計画はありません。

今後を見据えた時には、いんざい子育てプランの次期計画が、令和5～6年度に策定されますが、その策定に当たっての調査、アンケートがあります。その中で、一時預かりや認可外保育施設が必要なのか、保育ステーションも皆さんは利用されるのか、こういったことのアンケートをとって、印西市の子育て政策をどうやっていくのかという部分を決めていくと思えます。現時点で市の方で計画や方針はありません。

【委員】待機児童数がゼロになったということですが、今後、減っていくか、増えていくかわからないという状況で、今後どう対応していけばいいのか、議論してくださいということだと思います。先ほど定員以上に対応している保育園もあると説明がありましたが、データとして、印西全体で対応できる保育園はどの程度ありますか。また、子どもが増えた時の対応として、いずれ児童数が減っていくのが目に見えているので、これまでと同じように対応するべきではないという議論だと思います。現状で空き数を考慮すると、今後は保育園を増やすということではなく、今ある保育園でどうにかやりくりするべきではないかという提案だと思いますが、このような趣旨ですか。

【事務局】おっしゃるとおりです。弾力化のお話をいただきましたけれども、現状は44施設が市内にありますが、定員の100%より多くの園児を受け入れていただいている施設が15施設です。90%以上受け入れていただいている施設は24施設、全体の約半数です。市内全域では、定員に対してどのくらい入所しているかと言いますと、90.6%。90%を超えています。その中でも、1歳が107.0%、2歳が98.2%、3歳が98.4%と高くなっており、0歳、4歳、5歳が、約60%～80%台の入所率となっております。

【委員】保育園を新設する場合、市が募集し、民間が手を挙げて、そのあと市から助成金等が出て、保育園が完成するのでしょうか。民間であれば、園児がいなくなったら廃業というのは、経済的に自然です。でもそこで難しいのは、財政上税金を使って設置することです。保育園を作るときに、どの程度税金が使われて、どの程度作ることが大変なのかということをお話いただくと、深い議論ができると思えます。

【事務局】どういう形で、保育園ができるのかご説明しますと、まずはいんざい子育てプランに保育園の整備をする、しないを盛り込んでいるものです。その上で、待機児童の状況から、これは整備しなければならぬという判断がなされた場合には、整備することが決まります。その後、事業者をお願いするわけですが、前回公募をした際には、応募があった事業者さんのプレゼンを聞いて、事業者さんを決定しました。その後は、施設を整備するのにかなりの補助金、税金が投入されます。実際には、園舎を建設するのに数億円が掛かりますが、そのうち1～2億円が補助金として投入されています。そのような状況です。

【委員】今後の施設整備の方針の最後のところ、委員がおっしゃったのは①のところ、ここが一番肝だと思います。ですので、この会議の中でそういう審議をするのであれば、それを裏付けるものが重要です。それから②について、大規模住宅の建設等、これは急に決まるわけではないと思えます。まちづくり、都市

計画といった部署と連携を図りながらやっていけば、ある程度のところは押さえられると思います。マンションを建てる事業者として、何らかの協力というものはないのかと。例えば都市計画法の開発指導要綱の中の技術基準では、大規模な場合は、保育園の建設についてある程度負担させられると記憶しています。いきなり公募だけではなくて、みんなでまちづくり、みんなで子育てをしていくという意味で、そういうお願いはできないのかということです。

それから③の方の長期的な視点で保育ステーションについて、これは送迎保育ステーションと理解してよろしいですね。これは、資料をそろえた上で研究、検討し、必要であればこの会議の意見を聞くということを一先きにやった方がよろしいかと思います。

【委員】 待機児童の定義をどう解釈しますか。また、この後の議論として、小学校に上がれば学童保育や小学校の問題にもなります。ですから、そういうものと連動する中で、この保育所問題を捉える必要があります。データも含めて論点整理をしないと、どのように今後の計画や市の予算に反映されるのかよくわかりません。

方法論の話ですが、児童福祉法においても、子どもを預かることが自治体の責任としてあります。公的責任で保育を確保する必要があると思います。いずれ人口減少がやってくる中で、民間でなく公設の保育園を作り、やがて建物をたたむのも公設であればやりやすい、ということも議論できると思います。公的責任で保育の場を確保するのであれば、民間に委託するだけではなく、公設で対応して、需給調整する方がコントロールしやすいと思います。今後、予算を確保して、公設園を拡充、新たな地域に作るといった議論を加えてもいいのではありませんか。

これは意見になります。

【委員】 今後の施設整備の方向性として既存施設、既存法人との連携を図ることが第一となっていますが、この既存施設には公立園も含まれていますか。公立園を立ち上げる際はかなりの人数のキャパで立ち上げて、一時期定員を減らしたと思います。そこでカバーできるようになると、保護者の方からすると公立園の信頼性は高いので、いいのかなと思います。

【事務局】 公立園については、現状としては約6割から7割ぐらいの入所率です。これはいろいろと要因があるのですが、保育士が確保できていないのです。また希望自体が、どうしても民間の保育園の方が多いので、現在としてはこのような状況です。連携を図るという部分ですが、このパワーポイントの資料を作った時点では、民間でやっていただいている皆様方との連携という意味が強いです。しかし、公立園に空きがあって、受け入れられるようであれば、やはりトータルで待機児童対策をやっていければよりよいと考えております。

【委員】 日本のいいところは、地方自治体が決定権を持っていて、いろんな地方自治体で対応の仕方があり、それぞれ対応していることだと思います。今印西市は、人口がすごく増えて、未就学児が増えてという、同じような経験をした自治体が日本各地にいっぱいあると思います。他の地方自治体がどのように、人口増加、子どもの急激増加に対応してきたのか、データとして集めて共有しながら話した方が、実用性のある話ができるのではないかと考えて提案としての意見です。

【会長】 いろいろな意見ができました。只今の議題については、事務局案の説明のとおりとしてよろしい方は挙手をお願いいたします。

挙手多数ですので、本議題については、事務局の説明のとおり承認することといたします。

3 報告

【会 長】続きまして、報告に入ります。

報告(1) いんざい子育てプラン進捗状況について、事務局より説明をお願いします。

(1) いんざい子育てプラン進捗状況について

○事務局より説明

○質疑、意見

【委 員】量的な部分についてはコロナの関係もあり、参集型の交流を前提とした施設について利用者の減少がみられます。例えば、母子保健事業について、計画値と差があり、親子について、どこでどのようにしていたのか。来られなかった親子は、何か問題があったのか。保育園幼稚園に行く前の子どもであったり、妊娠から出産までといった地域の子育て支援、利用者支援事業、子育てヘルプや赤ちゃん訪問、乳幼児健診を実施する中で、どのように接してきたのか、そのあたりの印西市における子育てに関する課題とか悩みがあれば把握しているものを教えてください。

【事務局】質問にありましたように、昨年度は新型コロナの影響で制限をかけた関係もあり、児童館、子育て支援センターの利用者人数というのは、かなり少なくなっております。実際に利用できなかった方はどうなっているかというのは、確認しておりません。利用したいという保護者の方は大勢いらっしゃるようで、現在予約制としていますが、令和4年度の当初は電話での予約がほとんどであり、すぐに予約が埋まってしまう旨を児童館から聞いております。今後は、コロナの感染症対策が緩和されてきていることもあり、児童館や支援センターの方も、なるべく多くの保護者、子育て世代の方にご利用いただきたいと考えていますので、今後は利用者を増やしていくように考えているところです。

【委員】子育てしやすい街という待機児童が少ないといのもありますが、子どもをここで育てたい、育ててよかったな、というところが大事なのかなと。印西は今人口が増えていて、印西市で子どもを育てていきたい、新しく生まれる方にもいいよと言えるような、子育て相談や学習支援の中でつながりができやすいとか、コロナが落ち着いていく中で、そういう方向で推進していただけるといいなと思いました。

【委 員】放課後児童健全育成事業について、今後放課後子ども教室を増やす予定や計画はありますか。

【事務局】放課後子ども教室の実施箇所の拡大等につきましては、実施場所、ニーズ等も踏まえながら検討しているところです。

【会 長】報告について終わります。

4 その他

【会 長】続きまして、その他について事務局から説明をお願いします。

(1) 子育て支援ポータルサイトについて

(2) 第3期子ども・子育て支援事業計画について

○事務局より説明

○質疑、意見

【委員】子育て支援ポータルサイトですけど、作るのはすごく有益と思います。こういうのがあるという宣伝はどのようにしますか。

【事務局】広報紙への掲載を予定しています。市のホームページから今後新たな子育てポータルサイトに行くような仕組みになります。Twitter、Xといったものを使って宣伝していきたいと思っています。

【委員】SNSを活用している市議会議員がいるので、そういった方に協力してもらって宣伝してはいかがでしょうか。

【事務局】周知方法について検討したいと思います。

【委員】同じく子育てポータルサイトについてお伺いします。今あるホームページとは違うものということで、また新しくお作りになるということだと思います。今あるものとどういふところが違うのか。こういった情報提供するという詳細を教えてください。

【事務局】今あるホームページにも子育てに関するものはもちろん載っていますが、まず子育てに関するものを抜き出します。現在の市のホームページは、あまり区分分けされていませんが、ポータルサイトでは、それぞれ目的別、年齢別といったようなもので分けて、母親や子育てをしている世帯の方が、その目的のものにわかりやすく、すぐにたどり着くようにレイアウトも考えております。また、子育てに関するようなマップとして、小学校や児童館があるとか、そういったものも載せまして、分かりやすくするものです。イベントについては、児童館でどういふことをやっているか、ホームページを見ると、児童館のお便りを載せていますが、ポータルサイトでは、公設のものにつきまして、カレンダーを載せ、いつどこで何がやっているというのがわかりやすく表示するようにしております。

【委員】ホームページが見つらいというのは私もそう思います。内容自体はすごく詳しく書いてあって確かにわかりやすいのですが、そこにたどり着くことができないというのは、子育てサイトだけの問題ではなく、市役所全体のウェブサイトの問題ではないかと思っています。それを見やすく、たどり着きやすくするためのサイトであれば、無意味ではありませんか。例えば印西市に引っ越してきたニューファミリーが、まず何を知りたいのかというのは大体似たりよったりです。どういふ保育園、幼稚園があつて、小児科はどこにあるか、生活していく上で、一番最初に知りたいものを知りたい。でも、印西市はそういったサイトがない状況です。サブタイトル候補のこのアンケートをとると同時に、また追加のできるのであれば、どういふカテゴリが欲しいのかというアンケートが必要なのではないかと思っています。

【事務局】これはあくまでも先日行いましたポータルサイトの名称に関するものになります。昨年度、児童館や保育園に来られているお子さん、お母さん方に対しまして、市のホームページの子育てに関するものについてのアンケートをとりまして、その結果をもとに、今のサイトを作っております。より多くの利用者が分かりやすくなったということを目指してジャンルや構成とかも変えながら構築しています。今後も意見がありましたら、その都度いただければ、ホームページの方はなるべく皆さんが使いやすいようなものにするため、進化させていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

【委員】ぜひ、さっき委員が話したように、今はSNSと連携しながらでないと、なかなか情報が埋もれてしまって、皆さんに伝わりづらい状況だと思います。そのあたりの連携も、ぜひ検討していただきたいと思

います。

【委員】資料1ページで、保育園などにおける保育士確保に向けた取り組みをバックアップしていきますというものもありますが、具体的には、市の方で独自の方法とか、今後どんなことを目指していきたいのかお聞かせください。保育士の確保が難しい時代なので、うちの方も結構大変に苦労しています。その辺りの取り組みをお聞かせください。

【事務局】この保育士確保プランに基づき保育所における保育士確保に向けた取り組みをバックアップするということになります。すでに印西市の方ではある一定の要件を満たした保育士には月々4万円の補助金を交付しております。また、併せて保育所等が借り上げている宿舎に入居している保育士の家賃補助を行っております。最大額5万5500円について補助をしているところです。また、千葉県が実施しております修学資金貸付制度というものがございます。こちらについては一定の要件を満たすと返還が免除されます。これらについて、市のホームページなどで周知しております。現在のところ、このように保育士の確保に向けて認可保育所等に対して補助金などを交付させていただいているという状況です。

【委員】会議の中で事務局から説明され、それに対して意見を述べ、終了しています。だから私たちが議論したものがどのように指令、フィードバックされ、どのように反映されているのか、私たちは分からない状況です。今日の議題は、印西市的にすごく重要なことだと思いますが、役に立っているのでしょうか。私たちの議論が市の運営に反映されているのか不明なので、明確にさせていただけると、私たちもやりがいがあるかなと思います。

5 閉会

【会長】本日の内容の全てが終了しました。以上をもって、第1回子ども・子育て会議を閉会します。

○事務局より連絡事項等

- ・委員の任期について
- ・市民委員の公募について
- ・委員報酬について

令和5年度第1回印西市子ども・子育て会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和5年10月19日

子ども・子育て会議委員

子ども・子育て会議委員